

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572510659		
法人名	社会医療法人青嵐会		
事業所名	グループホームたんぽぽ西目		
所在地	秋田県由利本荘市西目町沼田字新道下2-6		
自己評価作成日	令和2年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和2年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居様が役割を持ち生活している。 ・家庭的な雰囲気大切に、居室内、外の環境作りや個人を尊重し安心安全に過ごしていただけるよう職員間で連携している。 ・季節の食材で食事を楽しんだり、行事や外出などで季節感を感じていただいている。 ・毎日のレクリエーション(体操や歌、ゲームなどで)機能維持に努めている。 ・週1回の健康チェックや体調不良時など直ぐに相談できる体制ができている。
--

ホームの基本理念となっている“その人らしさ”、“個性”を大切にする支援が職員間で徹底されており、特に、利用者の趣味や、本人が出来る事をホームの中でも持続していけるよう、役割をもって生活してもらうための配慮がなされていた。そのため、日中の生活も漫然と過ごすことなく、一人ひとりが塗り絵、折り紙、洗濯物量みなどを行い、皆で協力しながら生活し、生き生きとした表情が印象的であった。 同じ法人が運営する介護老人保健施設に隣接しており、医療面、健康面でのバックアップを受けることが可能であるため、そうした面も事業所の強みとなっている。 コロナ禍にありホームにこもりがちになる中でも、感染症対策に配慮しながら積極的に外出支援を行い、単調な生活とならないよう取り組まれていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲示、意識の共有、実践に取り組んでいる。	ホームの基本理念があり、それを基に“一人ひとりが「自分らしさ」を持ち、笑顔で生活できるよう支援します。”という年度の目標を設定しているとのことであった。年度目標は職員間で話し合って決めたものであり、共有され支援に活かされていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事(運動会)に参加したり、イベントに参加したりしていたが、今年はコロナの影響で参加できずにいる。	コロナ禍により、今年度は地域住民又は近隣の学校との交流はできていないとのことであったが、例年では町内運動会への参加、西目高校からの生徒の訪問などがあり、また町内会とのつながりも深く地域に根差したホームとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	日赤短大の実習生を受け入れるなどしている。また、認知症の人の理解や支援の方法を町内の広報で紹介するなどしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し意見交換や相談などを行っている。報告や避難訓練実施の相談などを行いながらサービスの向上に活かしている。今年度はコロナのため文書での報告となっている。	今年度は、推進委員会の開催が困難なため、文書による報告を行っている。利用者の入退所状況やホームでの活動内容を報告し委員への周知を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議への参加、情報提供、推進会議の開催、認定調査時情報提供し、連携に努めている。	毎月の地域ケア会議を通して包括センターや支所の職員と意見交換を行っており、情報交換できる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を開催、拘束について職員間でも話し合っている。当ホームでは身体拘束を行う入居者はいない。	委員会の開催と研修会の取り組みが適切に行われていた。対象となる利用者はいないが、外部の研修会へ参加し伝達研修を行うなど身体拘束防止に向け意識的に取り組んでいた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い意識を高め、防止に努めている。また、年に1度外部研修にも参加し、その都度、勉強会している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が説明をし理解、了承を得ている。また、いつでも疑問点など相談できるよう伝え、理解、納得の得られる取り組みを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など家族との会話を密にし情報交換を行っている。また、要望等はカンファレンス等で職員に周知している。	ご意見箱を設置し要望意見を提出できるよう配慮している。毎日午前10時と午後3時に新聞の読み聞かせの時間を設けており、利用者と一緒に意見交換する時間を設けていた。また家族からは面会時等を利用して要望を聞き取るよう取り組んでいる。	運営に対する家族・利用者からの意見の吸い上げを目指し、家族アンケート等の実施に向けた取り組みに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員カンファレンスや状況に応じて、話し合う機会を設けPDCAを使用し反映させている。	毎月のカンファレンスを利用し、業務における改善事項を話し合っている。また、年2回の人事考課の面接でも、職員から運営その他の意見を表出できる機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表の自己評価をもとに、面談等を行い職員の状況を把握している。また希望休、有給をできるだけ使用できるよう心掛けている。業務内容もその都度職員間で話し合い、働きやすい職場作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加する機会があり、ホーム内での勉強会も定期的に行っている。研修に参加した職員は勉強会で報告するなどし知識の共有を行っている。できる限り職員全員が研修に参加学ぶ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会参加などで各職場の方々とのネットワークづくりをし相談等を行い、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と担当職員が訪問し、顔合わせや情報収集を行っている。職員へ周知し安心して入居生活を送れるように行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や入居開始時、家族の不安や要望を傾聴しながら受け止め、関係性が築けるようにしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や畑仕事に共に取り組みながら知恵や慣わしを教えて頂いたり、共に支え合う関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で制限される事が多いが、毎月お便りで状況報告や電話での報告、相談など行っている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で外出も制限されており地域行事には参加できないが、知り合いの方に差し入れを頂きお礼の電話をするなど関係を続けている。	馴染みの美容院への外出、昔からの知人友人への面会など、利用者から要望があった際は随時対応している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を常に職員が見守りや気配りをし、職員がいつでも対応できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族が差し入れを持ち来居されたり、老健へ出向き面会したり関わりを持ち続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中で希望、要望を聞く機会を設けカンファレンス等で話し合い、出来る限り希望や想いを取り入れ意に添うよう努めている。	居室掃除などの時間に本人との1対1の会話になった際には、最近考えていることや要望がないかについて普段の生活での思いを聞くように配慮している。また、共有すべき事項は記録しながら皆で実現に向け検討している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や環境等の情報を家族やケアマネジャーから提供してもらったり、利用している施設や自宅などへ訪問させていただき情報を得たりしながら把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況を把握し、本人の出来ることを見極め気づいた事はカルテ記入するなどし、把握に努め職員で共有している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意見、要望を聞きながら、又、日々の会話の中から情報を得たり、カンファレンスや話し合いの場を設けたりし、現状に応じた計画を作成している。	介護計画はチームで作成することを前提に、関係する職員全員から意見を出すこととしている。職員が勤務上の理由から本人のカンファレンスに参加できない場合は事前に意見を出してもらうこととしている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録、気づきノート、カードックス記載、申し送りやカンファレンスで共有し、日々のケアに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市町村、医療機関、併設施設、地域住民、消防等の協力を得ながら安全な暮らしができるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関への定期受診が受けられるよう支援している。家族が受診介助する場合は、情報提供用紙を持参していただいている。歯科医は協力医受診とし、家族に入居時説明、同意を得ている。かかりつけ薬局の先生とも相談や連携を密にしている。	利用者のかかりつけ病院への通院を基本とし、通院結果はその日のうちに家族へと報告している。また、薬局からも随時飲み合わせや服薬方法について相談し、アドバイスを受けている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師が週1回健康チェックに来居、また、24時間相談や受診指示など密に対応できている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院の退院支援看護師と情報提供を密に行い、随時連携を図りながら、早期退院できるよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明、同意を得ながら早めの対応策に向け、方針を共有し、状況に応じ取り組んでいる。また、入院した場合などは家族、病院、老健などと情報を密にしている。	重度化した場合は、隣接する老健に入所し対応する体制が整えられているため、入居時に家族に説明している。また、老健は本グループホームのバックアップ施設ともなっているため、医師や看護師に相談できる体制も整っていることから、利用者・家族にとっても安心材料となっている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを見直し、勉強会を行い周知している。また、実際の場面で一緒に実践、指導して身につけている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域住民を協力員として、避難訓練を実施し併設施設の協力体制も築いているが、今年はコロナの影響で実践できていない。	非常時には町内会の協力が得られるよう、地域協力員として体制を整えている。また、実際に訓練時には協力員にも参加していただき、避難誘導にもあたってもらうなど実践的な取り組みも行っている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳をもった言葉かけや接し方を意識し、心がけている。言葉使いが的確でない場合等は職員間で注意し合っている。	プライバシー保護に係るマニュアルを整備し、また事業所内の研修計画に盛り込むなど取り組んでいる。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を、意志表示できるように支援し、出来ない人には表情や動作を観察しながら、自己選択できるよう職員と一緒に話し合いながら行えるように努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムを大切にしながら、その人に合ったペースで生活できるように支援しているが、マンパワーの都合で希望に添えないこともある。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋利用や美容院で髪染めやパーマをかけたり、機能低下しても訪問美容利用し身だしなみを整えている。 行事や外出、受診時には、オシャレし楽しめている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ役割を持ちながら、職員と一緒に調理、片付けをしている。又、頂き物(山菜や魚)や畑で収穫した野菜や取り入れ季節の食事を楽しめるように支援している。	食事の際は、準備から片付けに至るまで可能な限り利用者さんもそれぞれの役割をもって参加していた。その時々で旬のものを取り入れ、食事を通して季節を感じてもらえるよう配慮している。入所時には、家族から本人の好きな食べ物などを聞き取りするなどし、本人の好みに合わせた食事提供を行っている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士の献立をもとにして、個々に応じた量や好みの食材を調整し提供している。水分量も個別に対応している。 好き嫌いの多い利用者様に対しては本人と相談しながら提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけや介助、就寝前、義歯洗浄を行っている。 また、義歯が合わない場合などは歯科受診し調整を行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けし、トイレ誘導している。 個々のその時々状況に応じて綿パンツ、リハビリパンツなど種類を使い分けて支援している。	排泄チェック表を利用し、排泄パターンをつかみながら、本人が出来るだけトイレで排泄できるよう声掛け誘導などの支援を行っている。お通じが良くなるオイルを試行的に取り入れるなど、自然な排泄に向けても取り組んでいる。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて起床時、水分提供、朝食時は乳製品を取り入れ便秘を防いでいる。 朝のラジオ体操、散歩やレクリエーションに適度な運動を取り入れている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日別で午後入浴のみとなっているが、個々の健康状態(失禁、皮膚疾患等)受診等を見ながら、その都度支援しているが夜間入浴は職員1人のために希望に添えない状況にある。	週に3回の入浴日があり、人数を分けながら支援にて入浴を実施している。白癬等、利用者の状況によっては毎日の足浴を実施するなど柔軟に対応している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や畳、ソファ等で思い思いに休息している。 夜間は、照明や寝具を状況に応じて工夫し、安心して眠れるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を活用しながら、把握している。 臨時薬の場合は、状態を観察しながら副作用の有無を把握したり、薬局の先生や併設施設の看護師に相談したりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを役割として取り組めるように洗濯物たたみや台所の手伝い、畑仕事や散歩、外でのレクリエーション、外出等で、気分転換を図れるよう支援している。 今年はなかなか買い物等はできていない。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナのために外出などは厳しいが、外出（ドライブ）、散歩、畑仕事等、日常的に閉じこもらない生活を心がけている。	ホーム周辺の散歩や受診の際のドライブ。買い物要望があれば外出したりと、可能な限り対応するよう心掛けている。特にコロナ禍にあっても感染対策を行いながら積極的に外出支援を行っていた。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで預り金として管理している。管理が出来る方は、受診時にジュースを購入時に支払いをするため職員が見守りをしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時は、電話出来るよう支援している。また、携帯電話を所持されている方もおり、自由に兄弟や家族と会話楽しまれている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気を心がけ、温度、湿度の管理をし、不快を招かないよう配慮し、季節の花や貼り絵など飾り季節を感じる居心地のよい環境に努めている。	温度湿度の管理も徹底されており、皆が過ごすホールには、花や飾りを取り入れ、今の季節が分かるような落ち着いた空間づくりがなされていた。また行事などの写真がきれいに掲示されており、ホームの活動内容が手に取るように確認できた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに居室、ソファ、畳で利用者同士で語り合いながら、くつろいで過ごしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、使い慣れた家具、家族の写真、位牌等を持って来られ、心地よく過ごせるよう工夫している。また、本人の希望にて上手く縫ったぬり絵など貼ったりし、自分の城を作られている。	ベッドや洗面台、エアコンなどが備え付けとなっている。スペースや移動の障害にならない程度に利用者の使いなれたものを出来るだけ持ち込んでもらうようご家族にもお願いしている。出窓に植物を置くなど、利用者それぞれ特色のある居室となっていた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室に表示や目印をする等工夫し、廊下などは障害物など置かないよう安全な歩行に配慮している。		